

安全データシート

改定日:2024年2月16日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

マグネシウム(削り状)(リボン状)(テープ)
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
GA0005

整理番号

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性
健康に対する有害性

燃焼性
皮膚腐食性／刺激性:区分2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性:区分2A
特定標的臓器毒性:区分3(気道刺激性)
(単回ばく露)

水生環境有害性 長期(慢性):区分4

環境に対する有害性
GHSラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告
燃焼性
皮膚刺激
強い眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ
長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ

注意書き

【安全対策】
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙
容器を密閉すること。／アースをとること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレートの吸入を避けること。
取扱い後は手などをよく洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
【応急処置】
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿で休息させること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
特別な処置が緊急に必要である。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当を受けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断／手当を受けること。
汚染された衣類を全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
火災の場合、消火するために適切な消火剤を使用すること。
【保管】
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
該当情報なし。

他の危険有害性

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名
慣用名又は別名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
濃度又は濃度範囲
官報公示整理番号(化審法/安衛法)
その他

化学物質
マグネシウム
—
Mg
CAS RN: 7439-95-4
99%以上
対象外
HSコード: 8014-

4. 応急措置	
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	眼： 経口： 発赤、痛み。 口腔内の灼熱感。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	乾燥砂、金属火災用消火剤、ソーダ灰、石灰
使ってはならない消火剤	水、粉末消火薬剤、二酸化炭素、ハロン、泡消火薬剤
特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 消火後再び発火するおそれがある。 火炎によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 マグネシウムは強い炎をあげて燃焼する。火災を直視することは避ける。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火活動は、有効に行える十分な距離から行う。 容器内に水を入れてはいけない。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め完全な防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 危険でなければ漏れを止める。 散水を漏出物に直接かけない。 乾燥した土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 漏洩物やその容器内に水をかけてはいけない。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体換気)	局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱注意事項	水と反応し燃焼する。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避	空気、湿気、水
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
保管条件	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。

安全な容器包装材料	保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけて保管すること。 乾燥した場所又は密閉容器に保管すること。 ガラス、ポリエチレン、等
8. 暴露防止及び保護措置	
管理濃度	未設定
許容濃度(出典)	
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	防塵マスク又は簡易防塵マスクを着用する。
呼吸用保護具	保護手袋を着用する。
手の保護具	保護眼鏡を着用する。
眼の保護具	作業着を着用する。
皮膚及び身体の保護具	
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	金属性固体(削り状又はリボン状又はテープ状)
色	銀白色～灰色
臭い	無臭
融点/凝固点	649℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	1100℃
可燃性	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	該当情報なし。
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
動粘性率	該当情報なし。
溶解度	水にほとんど溶けないが、水に反応し水素ガスを放出する。
n-オクタノール/水分分配係数	該当情報なし。
蒸気圧	該当情報なし。
密度及び/又は相対密度	1.7g/cm ³
相対ガス密度	該当情報なし。
蒸発速度	該当情報なし。
粒子特性	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性	常温の水とは反応しないが、沸騰水とは反応して水素ガスを発生する。
化学的安定性	通常の取扱条件において安定である。 空気、湿気により酸化されて黒ずむことがある。 微粉化した場合、引火性が高い。
危険有害反応可能性	水と反応し、燃焼する。 火気及び混触危険物質との接触。 酸、酸クロリド、強酸化剤、ハロゲン
避けるべき条件	該当情報なし。
混触危険物質	
危険有害な分解生成物	
11. 有害性情報	
急性毒性	該当情報なし。(分類できない)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	HSDB(Access on Jun 2005)、HSFS(1999)およびSITTIG(4th, 2002)の皮膚を刺激するとの記述から、区分2とした。 HSDB(Access on Jun 2005)、HSFS(1999)およびSITTIG(4th, 2002)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。回復性についてのデータはないため細区分はしなかった。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	該当情報なし。(分類できない)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし。(分類できない)
生殖細胞変異原性	該当情報なし。(分類できない)
発がん性	該当情報なし。(分類できない)
生殖毒性	該当情報なし。(分類できない)
特定標的臓器毒性(単回暴露)	HSDB(Access on Jun 2005)、HSFS(1999)およびSITTIG(4th, 2002)の呼吸器、肺または気道を刺激するとの記述から、気道刺激性があると判断し、区分3とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	該当情報なし。(分類できない)
誤えん有害性	該当情報なし。(分類できない)
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期: (急性) 該当情報なし。(分類できない)

	長期: (慢性)	L(E)C50≦100mg/Lデータが存在するものの、金属であり水中での挙動が不明である。(区分4)
残留性・分解性		該当情報なし。
生体蓄積性		該当情報なし。
土壌中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規ならび容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
汚染容器及び包装		空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意		
輸送に関する国際規制		
国連番号		1869
品名(国連輸送名)		マグネシウム(ペレット, 切削屑又はリボン状のもの)
国連分類		4.1(容器等級はⅢでありGHS分類は燃焼性)
容器等級		Ⅲ
国内規制がある場合の規制情報がある場合の規制情報		
陸上輸送		消防法の規定に従う。
海上輸送		船舶安全法の規定に従う。
航空輸送		航空法の規定に従う。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
		収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。
応急措置指針番号		138
15. 適用法令		
化学物質管理促進法(PRTR法)		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		名称等を表示し、又は通知すべき有害物〔施行令別表9〕に該当しない。
		(参考)2026年(令和8年)4月1日以降「マグネシウム(粉状のもの)」は名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔施行令別表9〕に該当する。
消防法		危険物に該当しない。
16. その他の情報		
参考文献		安全情報センターHP 職場のあんぜんサイト(厚労省HP) 17423の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II NITE－CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)
		記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。